

基本戦略4 五感と移ろいを楽しむ仕掛けをつくる

(1)基本戦略の目的

<目的>

大田観光の魅力をより一層向上させ、区内外の人たちにとっての来訪のきっかけづくり、地域めぐりと再訪の必然性を創り出すこと。

大田区内には「春宵の響（洗足池）」、「水止舞（厳正寺）」などの催事・地域の伝統行事、「OTA ふれあいフェスタ」といったイベントなどの日時が限定される行・催事に加えて、桜・梅の名所、東京湾や羽田空港の夜景など、季節や時刻によって表情を変える様々な魅力が多数存在しています。また、「東京港野鳥公園」や「多摩川台公園」など豊かな自然を持つ公園や多様な目的に対応できる設備の充実した公園も身近にあります。

そこで、区内のイベントや祭事など年間行事として定着しているもの、花などの季節を感じる魅力、朝日や夜景など、当日の天候や時刻が限定される魅力等を、地域を訪れるきっかけとしてPRするとともに、楽しみ方の紹介や“限定感”“オリジナル感”といった冠を付すことによって地域への新たな集客商品として創出していきます。これらの新しい地域集客商品は、季節・時刻・天候等が多様であることから、一度に全てを見ることができないことから、再訪（リピート）の必然性を生み出すことにもつながります。

また、物見遊山や名物を食する観光だけでなく、五感を楽しませる仕掛けを随所に設けることによって、心の豊かさを満喫できる観光の環境づくりにつとめます。

(2)基本戦略の概要と施策・事業

<概要>

大田区内の既往の自然・環境・歴史・文化等の資源をもとに、季節や時刻、天候等の地域・資源を最高に楽しむこのできる方法を伝授するとともに、“限定感”“オリジナル感”等の冠を付すことによって、地域商品としての魅力を強めます。

また、五感を楽しませる仕掛けを随所に設けることによって、心の豊かさを満喫できる観光の環境づくりにつとめます。

◆五感を楽しませる観光体験メニューの編集と充実

- 区内の資源の楽しみ方（「どんな楽しみ方ができるのか」「どんな楽しみがあったのか」）について、体験者から情報を収集する仕組みを構築し、データベースとし

て充実します。

- 資源の存在と解説だけを情報として発信するのではなく、その資源を実際に楽しむことができる活動内容、楽しみ方についても紹介し、ただ資源を見るだけでなく、五感を使って楽しむことができる体験メニューを商品化します。

●写真や画像による体験メニューの紹介



海苔すき体験学習の様子（大田区立中富小学校 HP より）

<http://homepage1.nifty.com/noriyaiwanami/norisuki.htm>

- 区内の体験プログラムメニュー一覧表(おた体験プログラムパンフレット(仮))の作成
- 区内体験施設での「おた体験プログラムパンフレット(仮)」の配布
- 大田区観光体験メニューはしごツアーの設定

例えば、

「海苔すき体験」＋「羽田空港見学」

「蒲田モダン切子体験」＋「大田市場見学」

◆移ろい(季節・時刻)を感じる観光体験メニューの編集と充実

- 大田区内には花の見所や夜景の見所など季節や時間によって魅力が高まる資源が豊富に存在することから、季節や時を感じる体験メニューを創出し、大田区だから提供できるメニューとして充実します。

例えば大田市場では、

- 季節の見所満載、「大田市場の春夏秋冬」メニューの紹介
- いつでも見学可、「大田市場版『24』情報」の提供
- 早起きに自信のない人におススメ！「区内一泊＋早朝大田市場せり見学」コースの設定
- 季節や時間を考慮した水と緑の景観資源の発掘

 <p>① AM 7:30</p>	<p>オークション (=せり)の始まり (午前7時30分)</p> <p>花の取引では「せり」をオークションと呼ぶようになりました。花き市場のオークションは、「せり時計」と呼ばれる電光掲示板に花の情報が表示され、商品見本を見ながら取引を行います。買い手は、手元のボタンで値段を決め、買いたい花きをせり落とします。</p>
 <p>① AM 6:00~</p>	<p>仲卸売場(午前6時~午前12頃)</p> <p>場内には仲卸業者の店があり、売買参加者以外の街の花屋さんたちは、ここで花を仕入れることができます。</p>
 <p>① AM 10:00</p>	<p>街の花屋さんへ(午前10時頃~)</p> <p>こうしてさまざまな花が街の花屋さんには運ばれ、皆さんの目を楽しませてくれます。</p>

市場の24時(生花) <http://www.shijou.metro.tokyo.jp/about/04/04.html>

◆限定の地域集客商品づくり

➤ 季節や時刻の限定だけでなく、通常では見学できない施設や体験できないことを中心に限定商品として創出します。また、親子限定やカップル限定、訪日外国人観光客限定など、特定の対象に合わせた資源や体験などを取り入れた商品メニューを開発します。

●期間限定：開催/実施期間が限られているものや季節のイベント等、特定期間のみ見ることのできるものを体験・見学するもの。

例えば、「開港まで目前！羽田空港再拡張工事見学」、「開港！新羽田空港見学ツアー」

●数量限定：提供できるサービスの質を考慮し、数の制限をしたもの。

例えば、「蒲田モダン切子体験」、「海苔すき体験」

●対象者限定：ターゲットを明確にし、目的を重視したもの。

例えば、「外国人限定、早分かり！リアル・ジャパニーズカルチャーツアー(漫画喫茶、カプセルホテル、100円ショップ、B級グルメ等)」



◆大田観光体験記による口コミ情報の収集・発信

- 来訪者が体験し、感じた大田区の魅力を生の声として収集し、パンフレットや情報誌では伝えきれない大田観光の魅力を、ホームページ等を通じて「大田観光体験ふれ込み情報館(仮)」として発信します。
- 「ぶらっと大田(地元情報発信 WEB サイト)」における口コミ情報や体験談の充実



■地域情報の口コミ情報の受発信を行うポータルサイトの他地域事例

基本戦略5 来街者を迎え入れる情報を発信する

(1)基本戦略の目的

<目的>

海外を含めた多くの人々にきめ細かい情報発信を行い、誰もが訪れやすい地域・多くの楽しみ方がある地域であることをアピールしていくこと。情報発信と同時に情報収集の仕組み(旬の情報や通の情報等)を充実すること。

地域の評価は、観光の対象となる資源そのものの魅力評価だけではなく、アクセスや個々の資源に関する情報が来訪以前に伝わっているかということも評価の対象となります。また、実際に現地が必要となった情報が、どのようにして入手できるか等の情報の内容、発信システムでも地域に対する評価は大きく左右されます。

このようなことから、大田観光では、“旬の情報・タイムリーな情報”と“通好みの情報”等を発信することにより、地域への集客と再訪のきっかけをつくり出すとともに、海外からの来訪者も視野に入れ、きめ細やかな地域情報を発信することに努めます。また実際に訪れた人に対しては地域の情報が提供できる仕組みを構築し、誰もが大田区の魅力や楽しみを享受できるような情報発信に取り組みます。

(2)基本戦略の概要と施策・事業

<概要>

地域内外の多くの人に認知され、来訪のきっかけとなる大田観光の魅力情報を様々な情報媒体と連携を強めつつ、発信しつづけるとともに、来訪時に快適に回遊してもらうための情報発信拠点づくりに取り組みます。

◆旬の魅力の情報発信

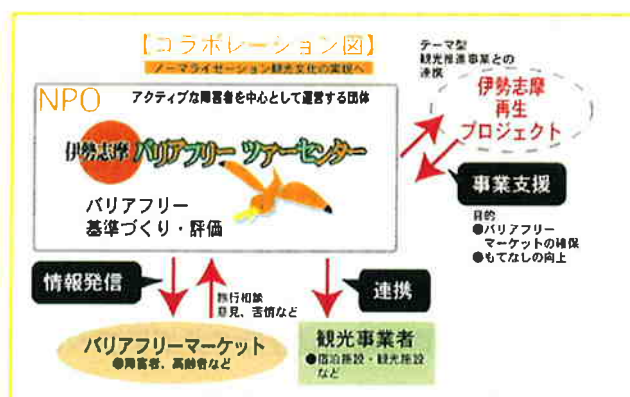
➤ 季節を変えて何度も来訪してもらうために、花の開花や社寺の祭事、地元につながる歳時記など四季折々の魅力をタイムリーに発信します。また、インターネットを通じてリアルタイムに情報発信するなど効果的な媒体を活用した情報発信をこころがけます。

- 区内行政施設でのイベントカレンダーの設置・配布
- 地元コミュニティ誌の活用
- キーワード検索を考慮したホームページの作成
- 区民がおすすめする旬の蒲田・大森の情報発信ボードを蒲田・大森駅に設置

◆バリア情報の発信

- 高齢者や障害者、外国人などが快適に区内を来訪、回遊できるよう資源や施設の整備状況、設備の充実度など、現状で対応している、対応できる状況などについて、来訪を検討している人が事前に把握できるよう情報を発信します。
- 妊婦や子ども連れ、高齢者や障害者、怪我や病気の方など歩行者の身体特性に合わせたバリア情報の収集
- 区内主要観光スポットおよび区内公共交通・乗り換えに関するバリア情報の集約と提供
- 外国人を対象とした、区内主要観光スポットと主要公共交通における多言語情報の提供
- 蒲田、大森周辺の外国人対応可能宿泊施設のPR
- まち工場紹介の多言語化パンフレット発刊
- エスニック飲食店のデータベース化

伊勢志摩バリアフリーツアーセンターは、伊勢・鳥羽・志摩地域におけるバリアフリーに関する情報を障害者スタッフのグループによる調査で収集し、体の不自由な旅行者が安心して当該地域における観光を楽しめるよう情報提供するとともに、地域のソフト面、ハード面のバリアフリー対応を向上させることを目的に設立されたNPO団体である。(三重県鳥羽市)



◆世界に向けた情報発信

- 羽田空港の再国際化にあわせて、誘客のためのプロモーション映像(DVD)の製作、ホームページの多言語化対応、区内の周遊マップ・施設情報の多言語化など、世界に大田区を発信できるツールを揃え、積極的な誘客を図ります。
- 既に日本を訪れている外国人に対しても、大田区の魅力を発信していくため都内の案内所や区内の既存の外国人立寄り施設などと連携していきます。
- 外国メディアに対して、大田区の観光、魅力を紹介してもらうための働きかけを進めます。また、区内在住の外国人に対して、母国への誘客プロモーションの橋渡しの役目を担ってもらえるような草の根的な活動を展開します。
- ツーリスト・インフォメーションセンターや都庁など都内主要情報拠点での、大田

区最新観光情報の提供

- 区内宿泊施設における、区内最新情報とウォーキングマップの提供
- 多言語でのキーワード検索を考慮した、ホームページでの最新大田情報の発信
- 海外メディアを招聘した大田区 PR ツアーの実施



◆情報発信媒体の多様化・マスコミ媒体との連携

- ホームページやポスター・パンフレットによる紹介だけでなく、関係機関との協力のもとに DVD や動画など映像による大田区の紹介ツールづくりに取り組みます。
- ブログ、コミュニティーサイトなどを活用した情報提供など、近年の情報発信手法を活かし、人々の情報収集活動に対応した大田区の情報発信しつづけます。また特定の情報を求めるターゲットに“こだわりの情報”が届くよう登録者用のメールマガジンなどの観光情報発信の仕組みを構築します。
- マスメディアの影響力は依然として大きいことから、マスメディアへのニュースリリースなど継続的に接触する機会を積極的に設けてメディアへの情報発信を進めます。

マスコミ媒体との連携以外では、

- 鉄道やバスなど公共交通との連携による大田情報の提供
- 地元コミュニティ誌との連携

◆情報発信拠点(プラザ)の整備

- 来訪者が目的地へスムーズに移動できるようにするため、区内の観光案内機能を充実させます。特に区の玄関口となる駅周辺をはじめ、観光拠点や区の公共施設における周辺観光資源に関する観光情報・案内機能を充実します。
- 羽田空港と連携し、羽田地区をはじめとする区内の観光・宿泊施設・飲食施設の情報、空港周辺でのミニツアー情報などの案内機能の充実を図ります。
- 羽田空港到着ロビー等における、羽田空港周辺情報の発信

- 羽田空港国際ターミナルに大田区の技術、および大田区を紹介するスペースを設置
- 区内行政施設や出張所及び羽田空港、区内主要駅(JR 蒲田・大森、東急蒲田・多摩川・西馬込、京急蒲田・平和島)など、拠点駅での歳時記やウォーキングマップの提供
- 区内商店街での、まちなか情報や商店街情報を紹介した「まちなか案内所(仮)」設置
- 区内宿泊施設における、水辺や緑に関するウォーキングマップの提供(日・英語版)



写真左：
駅に併設されている情報発信拠点
(静岡県熱海市：JR 熱海駅)
写真右：
公共施設内に併設されている情報発信拠点
(千葉県南房総市：道の駅「枇杷倶楽部」)

◆ロコミ情報の展開～区民によるシティセールス(地域自慢)の展開

➢ 通常のパンフレットや情報誌には掲載されていない地元住民や大田ファンが知る地元情報やロコミ情報等を活用して“通好み”な大田情報の受発信を積極的に展開します。

- 区民に向けた、地元最新ニュースやお得な地元商店街情報の提供
- 区内在住外国人に対応した、多言語による地元情報の発信
- 「ぶらっと大田(地元情報発信 WEB サイト)」の活用と展開
- 区内特定特派員による、通な大田区情報の構築と提供
- 区内の紙媒体情報とホームページ情報の一元化
- 蒲田周辺"夜の楽しみ方"(温泉・飲食施設)"情報の発信
- ウォーターフロントでの楽しみ方の提案と情報の発信



大田区 Walker の HP 内にある「大田区コミュニティ」では、会員登録をすると誰でもコミュニティ内の情報が見られるだけでなく、書き込みも可能になる。現在、公式コミュニティとして「大田区地元の逸品メニューを味わおう!」「大田区の街のウワサ!」がある。

基本戦略6 快適回遊と交通ネットワークを整える

(1)基本戦略の目的

<目的>

案内・誘導情報や公共交通機関との連携、沿道のサービスや景観づくり等により、来訪者が快適に回遊できる環境を創り出すこと。また、回遊の範囲を区内全域へと広げること。

大田区内には、池上本門寺や馬込文士村などの歴史・文化資源や蒲田周辺の商業施設、東京湾・多摩川沿いの水辺の空間など、区内全体に魅力的な資源が存在しています。来訪者に、これら資源を巡ってもらうためには、快適かつスムーズに移動できる仕組みを整えることが大切です。

そのため、観光情報、案内サインや誘導サインの充実、街なかや既往の観光施設周辺でのサービスの充実、回遊している沿道の景観づくり等も地域全体の魅力を高めるものとして大切な取組みです。

また、観光において使いやすい2次交通が存在することは重要であり、「交通利便性のよい町」というイメージをさらに高めるためにも、既往の公共交通機関との連携を強め、2次交通の情報提供と利便性サービスを充実し、快適な回遊性を確保します。このような仕組みが充実することがより、快適回遊が大田区全域に広がるように努めます。

(2)基本戦略の概要と施策・事業

<概要>

来訪者が快適に回遊できるよう、案内サイン・誘導サインの充実、街なかや既往の観光施設周辺を中心に回遊を支える仕組みづくりやサービスを充実します。また、既存の公共交通機関との連携によって快適回遊の交通ネットワークを充実し、地域全体へと回遊を広げるように取組みます。

来訪者の回遊を通じて地域住民との軒先交流を進めるとともに、区民への理解・協力を得つつ、沿道の修景にも取り組めます。住民との軒先交流、沿道の修景への取り組みの中では、来訪者によるゴミのポイ捨て、生活空間への侵入など生活環境を侵す恐れや、景観づくりにこだわるあまりの自然環境への負荷のかけすぎに対する配慮を欠くことの無いように努めます。

◆交通拠点からの回遊させる仕組みづくり

- ▶ 来訪者の玄関口となる交通拠点（駅、バス停など）での情報発信や案内板の設置など、区内を快適に回遊できる仕組みを構築します。

- JR 大森駅、JR 蒲田駅の両拠点駅へのチラシ配布用ラックの設置
 - バス路線の起点駅でのバス路線案内板の充実（設置場所への配慮を含む）
 - バス停付近の商店を中心とした「まち歩きコンシェルジュ」制度づくり
- <主な対象地域>

- ラックの設置：JR 大森駅（中央口・山王口）、JR 蒲田駅（中央コンコース）、東急蒲田駅（改札口付近）、京急蒲田駅（西口）など
- まち歩きコンシェルジュ：区内全域

■交通拠点における案内板に関する他地域事例

「駅からマップ」は、JR 東日本千葉支社発行のチラシタイプのウォーキングマップで、JR 各社と地元自治体が一体となって開催する大型観光キャンペーン2007年に実施された「千葉デスティネーションキャンペーン」開催にあわせて千葉支社管轄内の主な駅（全80種）で無料配布され、設置された駅からのウォーキングモデルコースが紹介されている。
（JR東日本千葉支社）

◆まち巡りルートに対応した案内の充実

- 来訪者の行動動線に合わせた周辺情報の案内サイン・誘導サイン、資源案内等の統廃合を行い、快適にまち歩きができるよう環境づくりに取り組みます。
- 歩行者用観光案内標識の整備（蒲田・大森駅前）
- 馬込文士村のコースは誘導サイン、説明版が充実しているので、観光協会がHPに掲載している「ぶらっと大田」の11コース、「大田の魅力再発見」で開発している《馬池洗（まいせん）》の各コースなどもマップだけでなく、誘導サインも充実する。

<p>オススメコース① 羽田 Haneda</p> <p>『漁師まちの名残』 コース所要時間 約3時間 → Go!</p>		<p>オススメコース⑦ 六郷 Rokugo</p> <p>『多摩川からの眺め』 コース所要時間 約1.5時間 → Go!</p>	
<p>オススメコース② 洗足 Senzoku</p> <p>『湧水を辿る』 コース所要時間 約2時間 → Go!</p>		<p>オススメコース⑧ 馬込 Magome</p> <p>『馬込文士村文学散歩』 コース所要時間 約2時間 → Go!</p>	
<p>オススメコース③ 大森 Omori</p> <p>『東海道沿いの今』 コース所要時間 約1.5時間 → Go!</p>		<p>オススメコース⑨ 蒲田 Kamata</p> <p>『流行は蒲田から』 コース所要時間 約2時間 → Go!</p>	
<p>オススメコース④ 下丸子 Shimomaruko</p> <p>『新田義興のあしあと』 コース所要時間 約2時間 → Go!</p>		<p>オススメコース⑩ 多摩川 Tamagawa</p> <p>『多摩川のんびり散歩』 コース所要時間 45時間 → Go!</p>	



- これらのまち巡りルート上の立寄り施設は相互の連携を強化し、他施設の情報
を提供できるような仕組みづくりを進める・

◆巡って楽しめる魅力的な道づくり・景観づくり

- 観光拠点の魅力づくりだけでなく、沿道の植栽や地域の個性にあった通りの演出
など歩いているときも楽しめる魅力的な道づくりや修景事業を、沿道の区民への
理解と協力を得つつ段階的に取り組みます。

- 観光協会の会員でもある NPO 法人「大田・花とみどりのまちづくり」など、地
域のまちづくり活動団体との協働

- 大森駅東地区近代化協議会が実施したように「みち（通り）に名前」をつける
運動の広範な展開

- 呑川緑道を活用した洗足池周辺回遊ルートの整備

<主な対象地域>

- 区内全域



◆ハード・ソフト面でのユニバーサルデザイン化

- 高齢者や子ども、障害者、外国人など、あらゆる人が安全で、安心して楽しい時
間を過ごせるように、段差の解消などハード面の整備を進めるとともに、多言語対
応による案内、もてなしの充実などのソフト面での整備にも取り組みます。

- 駅周辺を中心としたユニバーサルデザインの視点
での見直し

- 外国人対応を可能にするハンドブックの検討

<主な対象地域>

- 区内全域



<参考事例：おもてなし 365 日（岐阜県高山市）>

岐阜県高山市では、モニター旅行や専門機関での調査等を通じ、高山市に宿泊した方の意見収集を進め、主に宿泊施設におけるご高齢のお客様や障害のあるお客様への対応方法等を取りまとめたサービスマニュアル「おもてなし 365 日」を作成し、関係者に配布している。



◆水辺からの景観を楽しむ仕組みとシステムづくり

- ▶ 陸上から水辺の景観を楽しむだけでなく、身近な水辺環境を有する特徴を活かして、多摩川や東京湾(運河)などから大田区の景観を楽しめるような水上ネットワークを構築します。
- ▶ 多摩川の水面を利用した様々な活動プログラムを展開するとともに、上流域や対岸の川崎市との連携事業に取り組みます。また、東京湾の運河ネットワークについては、品川区と連携した事業の実現を進めます。

- ふるさとの浜辺公園など水辺を生かした活動
- 丸子橋（またはガス橋）⇒河口までのカヤック等による多摩川川下り
- 川崎市との連携による産業観光への取り組み
- 既に実施されているが、上流域との連携によるウォーキングやスーパーマラソンへの取り組み
- 多様な舟(屋形船・カヤック・手漕ぎボート)による楽しみの創出
- ウォーキング・ジョギング・サイクリングマップの作成
- 区民、来訪者の投稿による『大田区水辺 100 景』『緑 100 景』などの公募
- 船舶に関連する事業者間での連携の仕組みづくり
- 港湾管理者、河川管理者との調整

<主な対象地域>

- 多摩川、海老取川、東京湾運河
- 臨海部の公園地域

◆公共交通と連携した地域めぐりの充実

- 鉄道会社やバス会社などの公共交通機関との連携により、鉄道・バスなどの交通結節機能の強化を図るとともに、乗り換え案内等の情報提供・利便性の向上により、観光拠点間・資源間のスムーズな移動を実現します。
- 地域をめぐるとの楽しさを伝えるため、鉄道会社やバス会社との協力体制のもとで、テーマ性のある地域めぐり企画商品づくりに取組みます。
 - 多様で利便性の高い2次交通の充実へ向けた利用システム、サービスの検討
 - 多摩川アートラインプロジェクトとの連携強化（商店街を巻き込む活動の展開）
 - 京急との連携による「羽田・六郷地区商店街ウォーキング」の検討
 - 臨海部の魅力資源を訪ねるバス会社との連携ツアーの開発（試験的には実施）

<主な対象地域>

- 東急沿線、京急沿線地域
- 臨海地域

◆公共施設の開放・利活用

- 500箇所にも及ぶ大田区の公共施設を区民や来訪者の回遊のサービス支援機能(地域情報の発信窓口、休憩・トイレ等)として利活用することを検討します。
- 地区の情報館、地区固有のイベント会場等、地元で賑わいを創出する舞台としての利活用についても検討します。
 - 大田区の公共施設の立地、職員数、施設の性格などの整理、利活用の可能性の検討

<主な対象地域>

- 区内全域

基本戦略7 大田観光サポーターを育て・組織化する

(1)基本戦略の目的

<目的>

大田観光の始動・展開・発展に向けて、大田区の観光を支える人材育成と組織を充実すること。地域全体として来訪者へのもてなし意識の向上を図ること。

観光地としてのイメージが希薄である大田観光を推進するためには、始動期・展開期・発展期へと段階的な取組みが不可欠です。また、観光は「地域づくりの総仕上げ」としての意味合いもあり、まちづくりと表裏一体で取組むべき課題でもあります。すなわち、大田区や観光事業者だけが観光の主体ではなく、むしろ区民・事業者・NPOなどの民間人や団体が、日常的な大田観光の担い手となるのです。

そのため、大田観光とかかわりのあるすべての組織・人材の知恵と努力を結集することで、まち全体の魅力が高まり、さらなる賑わいや活力が生まれてくるのです。また、区の魅力やイベントの情報を、来訪者に対して“もてなしの心”をもって気軽に提供する区民がたくさん育つことが、おおたファンを増やし、結果としてリピーターの増加につながります。

このようなことから、大田観光を推進するサポート部隊を育成し、海外を含めた多くの来訪者に対応できる体制を構築し、大田区を訪れる来訪者に対するもてなしを向上させるよう積極的かつ段階的に取組みます。

(2)基本戦略の概要と施策・事業

<概要>

大田観光を持続発展的に推進するため、中核組織づくりと体制づくりに取り組むとともに、サポートの仕組みづくり、人材育成を段階的に充実していきます。

また、地域全体でのもてなし環境の充実が地域の魅力をさらに高めることから、地域ぐるみでのもてなしの展開を図るとともに、広域との連携を通じて、大田観光の魅力の強調と補完とを推進します。

◆観光協会の機能充実

- 大田観光の中核的推進役を担うことが期待される観光協会の機能強化に努めます。また、区の観光窓口として情報を集約するとともに区内各施設との連携強化を支援し、観光客への情報発信窓口として観光コンシェルジュ機能の充実を図ります。

- 観光振興策の展開にあたっての役割分担の明確化